

ラナウイルスでカエルなど大量死

日本で6件、強い感染力

アメリカやヨーロッパで感染が広がっている「ラナウイルス」によるカエルやサンショウウオの大量死が、これまでに日本で六件あったことが環境省の報告書で明らかになりました。二〇〇六年に国内で見つ



つたカエルツボカビ症よりも感染力が強いとされ、感染

アメリカやヨーロッパで流行 魚類や爬虫類にも

の広がりを防ぐ対策もまだありません。

報告書づくりにかかわった麻布大学准教授の宇根有美先生「写真」によると、国内では〇八年にウシガエルとカスミサンショウウオの大量死が見つかり、〇九年に四件のウシガエルの大量死が確かめられました。どれもラナウイルスが原因です。ウシガエルは、オタマジャクシからカエルに成長する途中の幼生や幼体が感染し、脚や尾の細胞が死んでおなかやふくれたり、内臓の細胞が死んでおなかやふくれたりしていました。

冷凍しても死にません。感染する種類も多いので対策もやっかいです」と宇根先生。ラナウイルスは内臓の細胞に感染するため、発症するまでは解剖しないと感染しているかどうかはわからないといわれています。

そもそも、いま世界には約六千種類の両生類がいて、そのうち約三二％に絶滅のおそれがあるそうです。ラナウイルスは絶滅に拍車をかけると心配されています。

宇根先生は「数が多い両生類が大量にいなくなる」と、生態系のバランスをくずし、わたしたち人間の生活にも何らかの影響が出てくるはず。もしカエルなどがたくさん死んでいるのを見つけたら、県や市などの人に知らせてほしいですね」と話しています。

ラナウイルスはカエルなどの両生類のほか、魚類や爬虫類にも感染し、アメリカやヨーロッパ、アジアで大量死が確認されています。人には感染しないと考えられています。

「カエルなどを大量死さ

(市川 博正)



ラナウイルスに感染し、うしろ脚の指がないウシガエルの幼体＝写真左上、おなかやふくれたオタマジャクシ＝同下、腎臓のなかで見つかったラナウイルス（宇根先生提供）

※掲載許可取得済

朝日小学生新聞社に無断で転載することを禁止します。